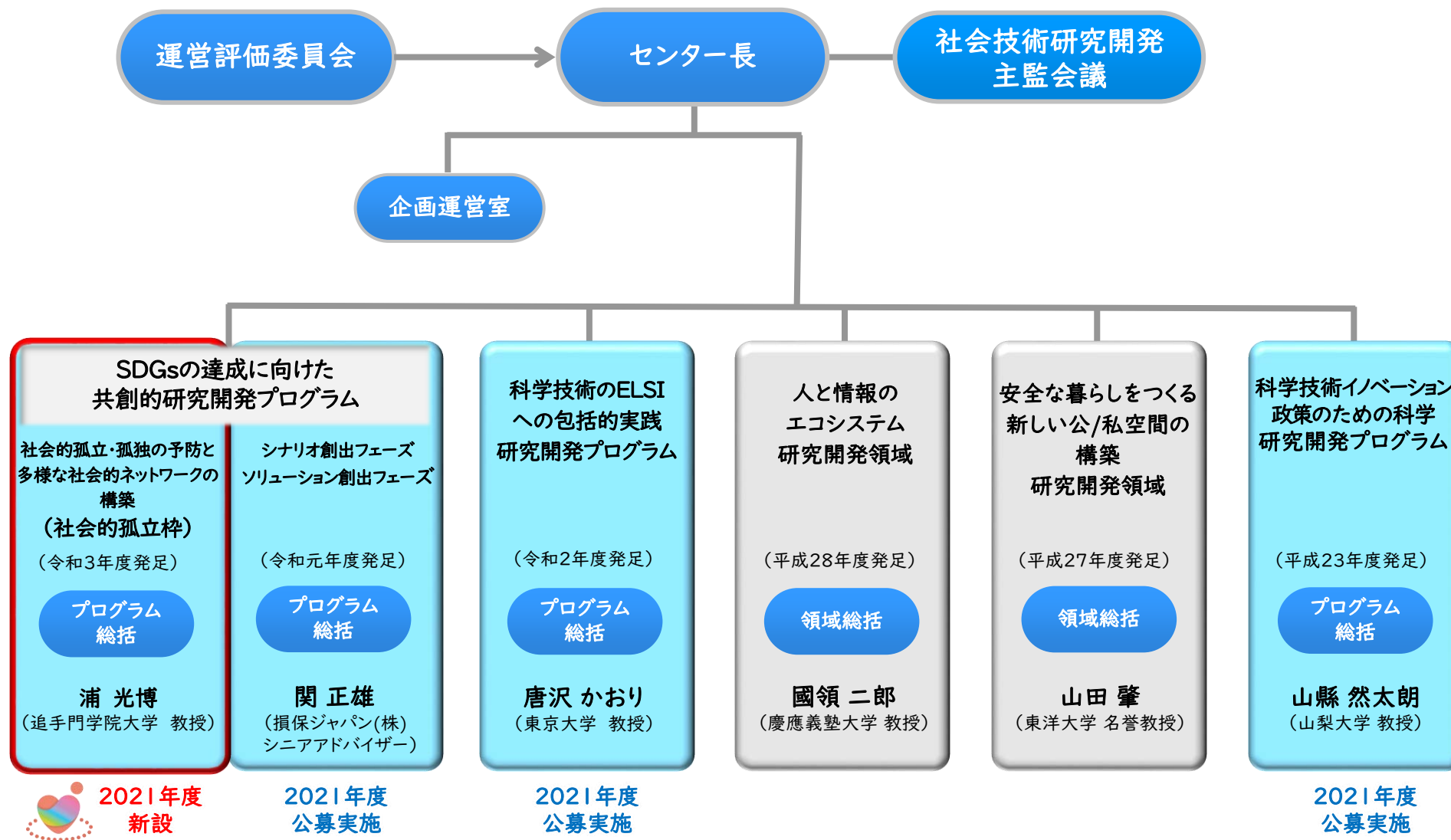


SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
**社会的孤立・孤独の予防と  
多様な社会的ネットワークの構築**

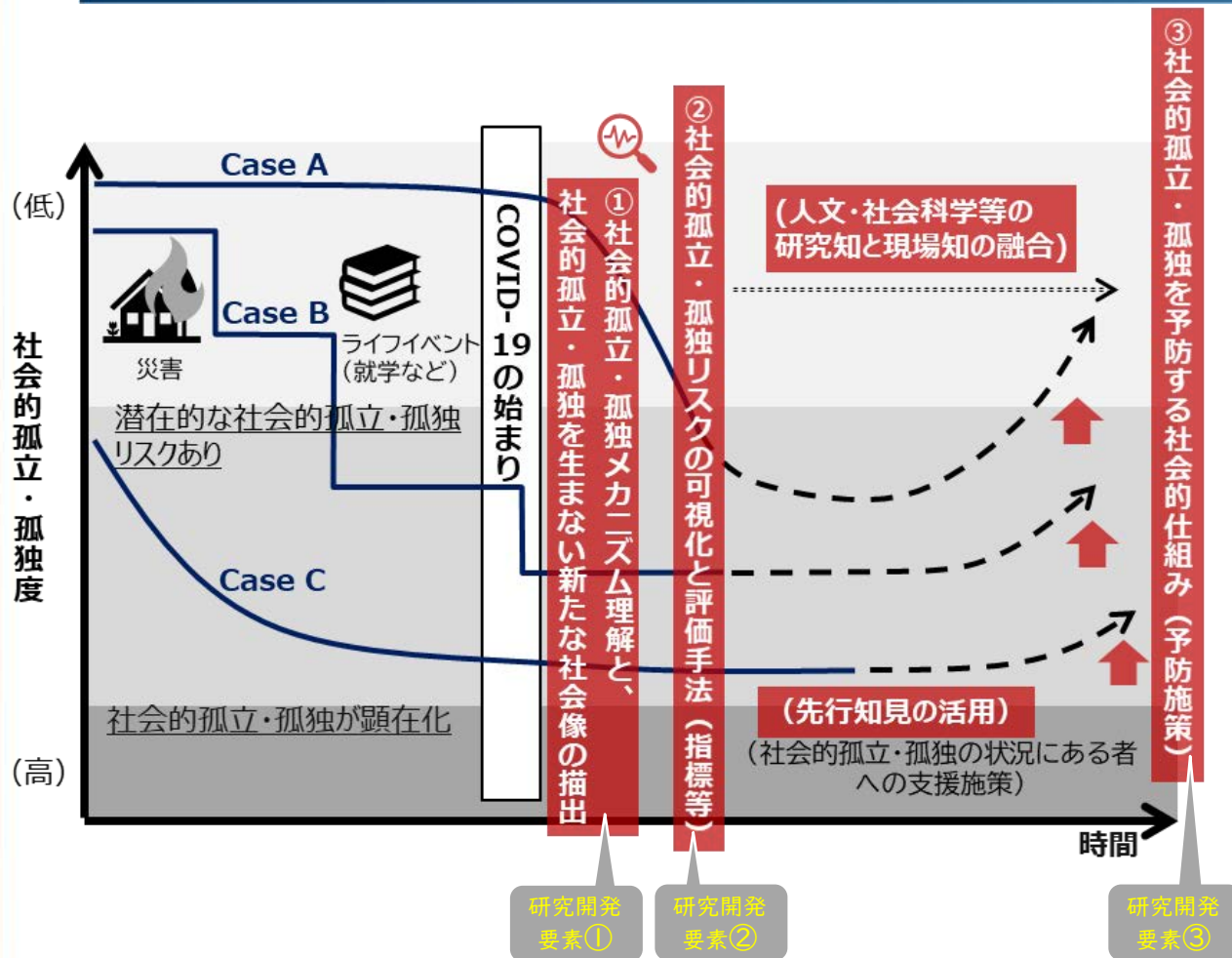
<研究開発プログラム概要>

2022年3月29日

# 社会技術研究開発センター (RISTEX) 運営体制 (2021年度)



# 研究開発要素①②③の一体的推進



## 研究開発要素①

社会的孤立・孤独メカニズム理解と、社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像の描出

人や集団の行動、心理、社会的背景の検証から、どのようなメカニズムによって社会的孤立・孤独が生じるのか、社会的孤立・孤独の状況にある者の視点も考慮した社会のあり方を分析します。その結果を基に、**予防すべき社会的孤立・孤独を明確にする**と共に、**社会的孤立・孤独を生まない新たな社会像を描出**します。

## 研究開発要素②

社会的孤立・孤独リスクの可視化と評価手法 (指標等) の開発

①で描いた社会像の実現に向け、まず人や集団が社会的孤立・孤独に陥る**リスクを早期にとらえるための可視化や評価手法 (指標等)**を研究開発します。

## 研究開発要素③

社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み

社会的孤立・孤独を予防する社会的仕組み (予防施策)を開発し②で開発した社会的孤立・孤独リスクの可視化・評価手法 (指標等)に基づいた**評価・実証を、国内の特定地域や、学校、職場、コミュニティなどを対象に行います。**

Case A: 社会的孤立・孤独とは無縁だったが、COVID-19をきっかけに社会的孤立・孤独リスク増加

Case B: 災害/ライフイベントをきっかけに社会的孤立・孤独リスクが徐々に増加し、COVID-19より更に悪化

Case C: 所与の環境・障害により、例えば幼少期から社会的孤立・孤独リスク高

「厚生労働省、社会的排除にいたるプロセス～若年ケース・スタディから見る排除の過程～概要 (内閣官房/内閣府提出資料)、

第8回社会保障審議会生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会資料 (平成24年9月28日)」を参考に、RISTEXにて作成

# プログラム目標

- 人口減少・少子高齢化、経済変動、新興感染症による影響など、様々な社会構造の変化を踏まえ、

研究開発  
要素①

社会的孤立・孤独の**メカニズムを明らかにする**と共に、  
社会的孤立・孤独を生まない**社会像を描出し**、

研究開発  
要素②

人や集団が社会的孤立・孤独に陥る**リスクの可視化や評価手法**（指標等）、  
社会的孤立・孤独を**予防する社会的仕組み**の研究開発を推進。

研究開発  
要素③

- その際、開発した評価手法（指標等）に基づいた社会的孤立・孤独の予防施策の効果検証を含め**概念実証までを一体的に行う**。
- 本プログラムの実施を通して、人・組織・コミュニティ間の多様な社会的つながり・ネットワークを実現し、**社会的孤立・孤独を生まない社会の創出**を目指す。

# 本プログラムにおける**社会的孤立・孤独の予防**

- 孤立する主体の環境や状況に関連する情報から、  
**孤立状態を可視化して測定しこれに基づき望まない孤立を予防する**
- 目標とするのは、  
**社会としての、孤立を生まない**多様なつながり・ネットワークの構築であり、  
**孤立してしまう主体にとっての、**多様なつながり・ネットワークの構築
- **社会的孤立を主軸**におきつつ、  
孤独や社会的排除、あるいは幸福度やウェルビーイングといった  
関連する概念も含めた**多角的な視点**で研究開発を推進



# 研究開発プロジェクト期間・規模（※参考：2021年度情報）

研究開発要素①②③の一体的推進とPoC実施に向けた道筋を確実なものとするため、新しい社会像の実現に向けた構想の策定や施策現場との接続などの体制構築の強化等を推進

研究開発要素①②③の一体的推進する体制の整備状況やプロジェクト目標達成の観点から、研究開発の継続の妥当性を判断



## ■ マネジメント体制

人社研究と施策現場のマッチングやプロジェクトを育てる伴走支援を実現するためのプラットフォーム的機能が必要。

## ■プログラム総括

### 浦 光博

(追手門学院大学 教授  
／広島大学 名誉教授)



## ■プログラムアドバイザー

### 有末 賢

(亜細亜大学 都市創造学部都市創造学科 教授)

### 石井 光太

(作家)

### 稲葉 陽二

(元日本大学法学部 教授)

### 岩田 正美

(日本女子大学 名誉教授)

### 宇佐川 邦子

(株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター センター長)

### 岸 恵美子

(東邦大学大学院 看護学研究科 教授)

### 工藤 啓

(認定特定非営利活動法人育て上げネット 理事長)

### 平田 オリザ

(芸術文化観光専門職大学 学長)

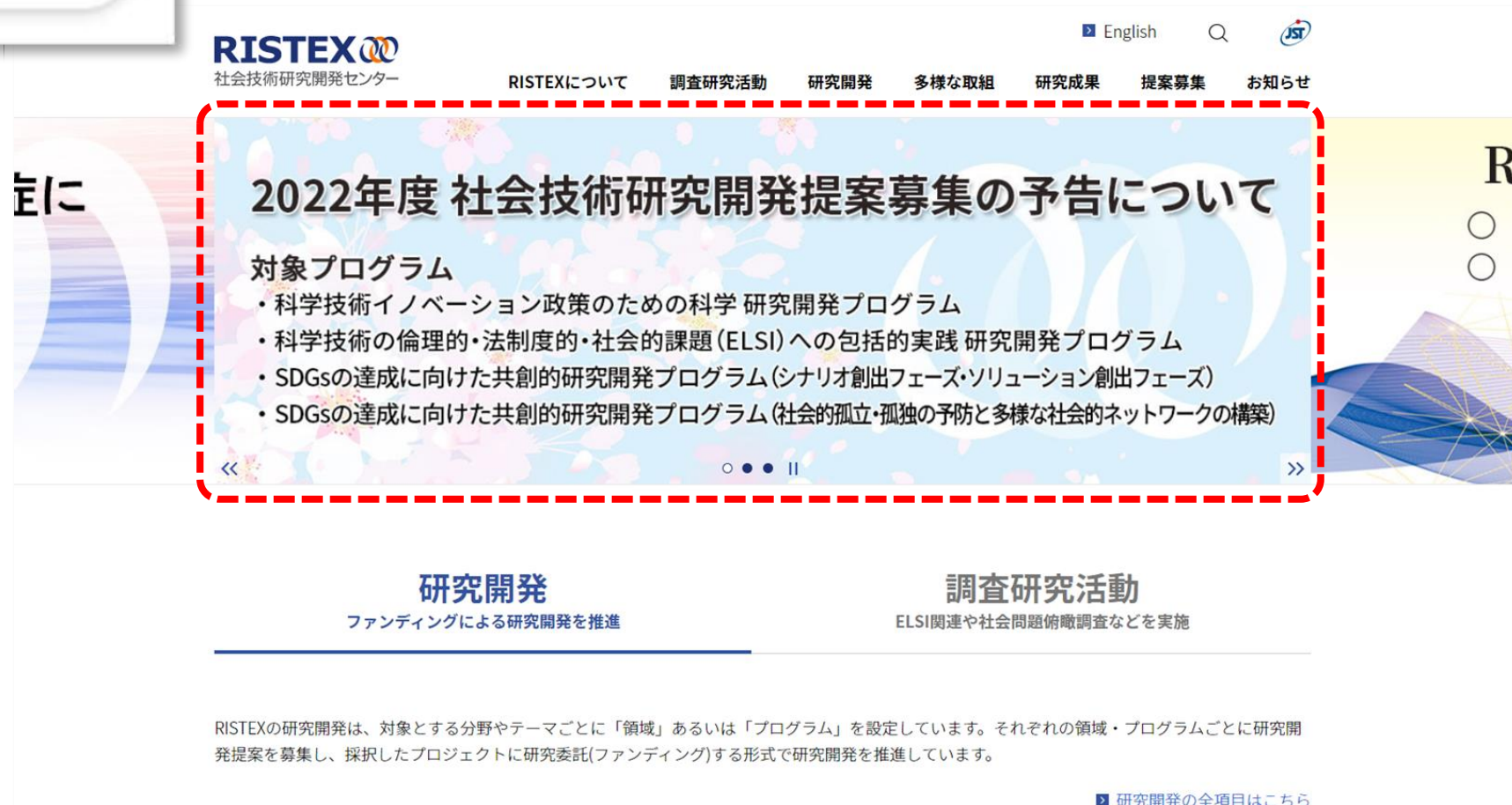
### 藤森 克彦

(日本福祉大学 福祉経営学部 教授／みずほリサーチ&テクノロジーズ 主席研究員)

### 藤原 佳典

(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム チームリーダー)

# 2022年度公募説明会について



**RISTEX**  
社会技術研究開発センター

English

RISTEXについて 調査研究活動 研究開発 多様な取組 研究成果 提案募集 お知らせ

## 2022年度 社会技術研究開発提案募集の予告について

**対象プログラム**

- ・ 科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム
- ・ 科学技術の倫理的・法制的・社会的課題(ELSI)への包括的実践 研究開発プログラム
- ・ SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)
- ・ SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)

<< ● ● ● >>

**研究開発**  
ファンディングによる研究開発を推進

**調査研究活動**  
ELSI関連や社会問題俯瞰調査などを実施

RISTEXの研究開発は、対象とする分野やテーマごとに「領域」あるいは「プログラム」を設定しています。それぞれの領域・プログラムごとに研究開発提案を募集し、採択したプロジェクトに研究委託(ファンディング)する形式で研究開発を推進しています。

[研究開発の全項目はこちら](#)



# 2022年度公募説明会について

● 2022年度の公募内容に関し  
**合同説明会**の開催を

① 4月12日(火)午後

② 5月10日(火)午後

に予定しております。

[https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal\\_2022.html](https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2022.html)

● 孤立プログラムの**公募に関するお問い合わせ**は、合同説明会もしくは下記メールアドレスまでお問い合わせください。

[boshu-koritsu@jst.go.jp](mailto:boshu-koritsu@jst.go.jp)

	準備中	準備中	準備中	準備中
プログラム名称	科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム	科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践 研究開発プログラム	SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (SOLVE for SDGs)	シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ
キーワード	エビデンスに基づく政策形成 (EBPM)	新興科学技術のELSI対応	技術シーズ活用による地域課題解決	社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築
募集開始	4月5日(火)			
提案書受付期限	5月9日(月)正午	6月8日(水)正午		
書類選考	【一次】5月～6月上旬 【二次】7月～8月上旬	6月～7月		
面接選考	7月～8月			
選考結果の通知・発表	9月下旬 (予定)			
研究開発の開始	10月上旬 (予定)			
合同募集説明会	第1回	4月12日(火)午後 (予定) ※詳細はページ下部		
	第2回	—	5月10日(火)午後 (予定) ※詳細はページ下部	
問い合わせ先	boshu[at]jst.go.jp (国立研究開発法人 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室 募集担当) ※[at]をアットマークに変えてください。			

## 本日のワークショップと公募の位置づけに関する留意事項

- 本ワークショップで取り上げる個別ケースはあくまで一つの事例であり、必ずしも本プログラム公募にて重視しているテーマという位置づけではございませんので、あらかじめご理解いただきますようお願いいたします。応募にあたっては、公募開始後、必ず2022年度の公募要領をご参照ください。
- 本ワークショップへの参加の有無は、社会的孤立枠の公募審査結果に影響いたしません。

## 本日のワークショップの目的について

- 本プログラムでは、すでに社会的注目度の高い社会的孤立・孤独について、事態が悪化することを防ぐことのみならず、社会的孤立・孤独を社会全体の問題として捉え、そもそも社会的孤立・孤独を生まない社会的仕組みを創るという、抜本的な一次予防を重視しています。
- その為には、**そもそも社会的孤立・孤独の何が問題なのか、どのような社会を目指すのか、という根本的な問いに対し、社会の多様な立場の人が一緒に考える必要があります。**